

## 113. はぶちししまい 羽湊獅子舞

### ■ 指定日

昭和53年11月7日

### ■ 種別

無形民俗文化財

### ■ 年代

江戸時代

### ■ 所在地

朝来市羽湊

### ■ 所有者

羽湊獅子舞保存会



### ■ 内容

「船が出ていく 帆かけて走る 茶屋の娘がそれ見て招く オーヤレナー」

歌の文句からわかるように、羽湊の獅子舞は播州吉富からの移入らしく、市川町甘地の獅子舞(県無形文化財指定)の系統である。

各地の民俗芸能のほとんどが、神事に関係があるように、羽湊の獅子舞も例外ではない。毎年10月の秋の例祭に氏神の一宮社に奉納されて村内安全を祈る。

残されている曲目は次のとおりである。

屋島、新屋島、切牡丹、トウヒャブロ、花掛、新花掛、新丸、ホラ、場広、御影、しり、歌の舞、獅子踊り、天狗ばやし、狐ばやし、高い山、お山の道中。

はやしは笛、太鼓、鉦であったが、今は笛のみとなっている。

牡丹の花がさ、赤だすきという服装で、化粧した童子がふたり、囃子として獅子の左右につく舞と、囃子のつかない舞とがある。囃子の持ち物として、扇子、御幣、毬、なぎなた、はたきなどがあり、曲目によって多彩である。

このうち「お山の道中」は、人の肩の上に人が乗って背継ぎで演じる「継ぎ獅子」である。